父母について

平成二十六年四月六日

西東京本部つつじヶ丘支部　児玉　走史

僕はお父さんが好きです。

きらいになったことは、ほんの少ししかありません。でも、いっぱいおこられ話を聞いてくれない日もあります。

空手では、よく注意をされます。すごい時はいっしょにやってくれない時もあります。その時はすごくくやしくなります。でも空手はやめたいとか、行きたくないと思ったことはありません。だって自分のためになっているを分かっているからです。注意してくれているのも、自分のために言ってくれていると分かっているからです。わからないと、ただイライラしててきとうに空手をやるからです。

だからこそ、「うまいな」と言われるために練習をしています。

だからすごい注意をしてくれたおかげで、

20 × 20

き本から五十四歩までできたと思います。す

ごい感しゃをしています。

　僕の目標は、すばらしい黒帯になることです。

　僕は、いつもささえてくれるお母さんにも感しゃをしています。いつもお母さんがいたから、練習もできるからです。

　家族やお母さんに、とった黒帯を見せて、「ありがとう」と言いたいです。